

業 務 速 報

NO. 837
2012. 11. 9
J R 東海労働組合
発行 淵上 利和
編集 本橋 浩司

2012年度年末手当第3回団体交渉開催 年末手当2.95ヶ月回答！

本部は持ち帰り検討

11月9日本部は、2012年度年末手当第3回団体交渉を開催し会社回答を受けました。

会社は回答にあたって、第2四半期の単体での営業収益が対前年比で109.5%となり通期における業績予想も上方修正したとしながらも、国内・外の景気動向等のリスク要因を背景に厳しい経営環境であること、さらにはJ R 東海の高い賃金水準と世間相場等を理由にあげ、日々尽力した社員の努力に精一杯報いると言いながらも、組合要求3.5ヶ月をはるかに下回る支給月数2.95ヶ月を回答しました。回答の詳細は以下の通りです。

2012年度年末手当の会社回答

1. 支払い月数は、2. 95ヶ月分とする
2. 支給日は、12月10日以降準備でき次第とする
3. 支給額は35歳ポイントで929,000円
4. 基礎給は35歳ポイントで315,000円
(基礎給…基本給、調整手当、扶養手当、役付手当、補償措置)

【会社の回答に当たっての考え方】

当社の第2四半期累計期間における業績は、単体の営業収益が対前年比で109.5%となり、通期における業績予想も上方修正したところですが、わが国における景気動向に目を向けると世界景気の減速等を背景として、このところ弱めの動きとなっているとされています。

今後についても、円高の長期化や欧州政府債務危機の影響、冬季における電力供給の制約などの様々なリスク要因が存在しており、一段と厳しい経営環境

になることも覚悟しておく必要があります。

また当社におけるこれまでの期末手当の水準はＪＲ他社はもちろん、世の中の相場と比較しても極めて高い水準にあり、鉄道事業を中心として公益性の高い事業を営む当社としては、期末手当の業績給としての性格を勘案しつつも、その水準については慎重に判断をすべきものと考えています。

以上の観点を踏まえ、当社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況にありますが、安全・安定輸送の確保や低コスト化の実現、効率的な業務遂行のために日々尽力した社員の努力に会社として精一杯報いると共に、当社の経営基盤の確立や、中央新幹線計画を始めとする諸施策の着実な推進、さらには効率的な業務遂行体制の構築に向けた全ての社員の一層の奮起を期待して、安定的支給のベースである2.9ヶ月に今回は0.05ヶ月分を上積みし2.95ヶ月としました。

社員の皆さんには今回の回答内容を踏まえ、ＪＲ東海の社員であることに自負と責任感を持ち、今後とも安全・安定輸送の確保を最優先に、より質の高いサービスの提供を継続することを大前提としつつ、決して惰性に流されることなく業務全般にわたる徹底的な効率化や低コスト化、さらには技術レベルの向上に不断に取り組んでいただきたいと思います。そして社員ひとりひとりが社会人であることの当然の責務として、法令を遵守することはもちろんのこと、ＪＲ東海の社員として人命を預かることの重責を不断に自覚すると共に、お客様からの信頼に応えるべく、緊張感をもって業務に邁進することを強く期待します。

以 上

本部は、「回答」を不満として持ち帰り検討の結果、再申し入れを行います。